

匠への道

■ 事業のねらい

企業見学や職業体験を通して、職業観や勤労観を養い、将来の自立した社会人・職業人となるために必要な課題解決力などの生きる力を育む。

■ 実施日 平成 25 年 2 月 16 日（土）～17 日（日） 1泊2日

■ 参加対象 小学校 5 年生～中学 3 年生 40 名

■ 参加実績 参加者：37 名

小 5 = 8 名、小 6 = 19 名、中 1 = 6 名、中 2 = 3 名、中 3 = 1 名
男子 = 14 名、女子 = 23 名

運営協力者：大学生 6 名

株式会社いたがき製販管理部責任者 丸山 美樹代 氏

株式会社ローレル広報部・商品部課長 望月 亜希子 氏

吉川食品株式会社工場長 河越 敏文 氏

■ 備考 活動場所：砂川少年自然の家、株式会社いたがき、株式会社ローレル、吉川食品株式会社
講師：北海道三笠高等学校教諭 齋田 雄司 氏

1 事業実施の背景



少子高齢化の進行や産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が進む中、子どもたちの進路をめぐる環境が大きく変化している。また、勤労観・職業観の未熟さや、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の不十分さ、社会の一員としての意識の希薄さが子どもたちの課題として指摘されている。これらのことを踏まえ、将来子どもたちが社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められている。

本事業は、企業見学や職業体験、講話を通して働くことや学ぶことの意義を理解し、企画書の作成を通して、課題に対応する能力を育むことをねらいとして実施した。

2 プログラムデザイン

受付 2 月 16 日（土）10:30

解散 2 月 17 日（日）12:30

| | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|-------------|-------|--------|--------------------------|--------|------|----------------------------------------------|------|---------------------------|------|----|-----------|----|------------|----|
| 2/16 (土) | | 受付 | 出会のつどい | 昼食 | バス移動 | Aコース オリジナル製品づくり Bコース おはぎづくり 工場見学 | バス移動 | AB共通コース 革タグづくり 工場見学 | バス移動 | 夕食 | 商品の企画書の作成 | | 入浴 就寝準備 | 就寝 |
| 2/17 (日) | 起床・朝食 | 企画書の発表 | 講話「働く」ということと料理を通して伝えたいこと | 別れのつどい | | | | | | | | | | |

■ アクティビティについて



■ 意図

- 企業での工夫や努力、商品開発についての話を直接担当者から聞くことで、自分の身の回りにある物が、どのようにして消費者の手元に届くかを考えさせた。
- 職業体験を通じて、働くことの大変さや楽しさを感じることを意識させた。
- ものづくりや職業体験をした会社の商品開発を行い、実際に自分で消費者側に立って企画書を考えることで、課題解決力を育むことを目指した。
- 講話をとおし、働くことや学ぶことへの理解を深め、自分の将来を考えるきっかけづくりとした。

■ 留意事項

- 企業との事前打ち合わせの中で、参加者が事業の主旨や内容を理解し、働く人の工夫や努力が伝わるような会社紹介やものづくり、職業体験を行なえるよう依頼し、企画書づくりに生かされるよう心がけた。

3 活動の様子



■ 当日の様子

1日目は、砂川市の(株)ローレル、吉川食品(株)と赤平市の(株)いたがきを訪問し、工場見学やものづくり体験、職業体験を行った。ローレルでは、製造部・荷造り部・販売部の3つの職種に分かれ、職業体験を行った。製造部では、ローレルのヒット商品の酒かすバスパックづくりを体験した。また、荷造り部では、商品の出荷を体験し、販売部では、接客を学んだ。吉川食品では、工場と和菓子を製造している様子を興味深く見学していた。その後、専用のパックを使いおはぎ作りを体験した。いたがきでは、商品の素材である大きなめし革に触れてみたり、職人が手作りで鞆を作る様子や、工房に併用したショールームを見学した。その後、いたがきのスタッフに教えてもらいながら、革のネームタグを作った。それぞれ、自分の名前が入ったネームタグを完成させ、細かな作業を丁寧に行うことの大切さと大変さを感じていた。

夜の活動では、新商品の企画書づくりを行った。作成前には、ローソンとの共同開発で「ラムカレーパン」を作った滝川西高校の生徒へのインタビュー映像を観賞した。参加者は、「自分の考えた商品が新商品として売れたらうれしいな。」と期待に胸をふくらませ、一生懸命創意工夫あふれる企画者を作成した。

2日目は、前日に作成した企画書の発表会を行い、聞き手のことを考え、わかりやすく大きな声で、自分たちで考えたアイデアあふれる商品を発表していた。

その後、ドラマ「高校生レストラン」のモデル校出身で、現在三笠高校教諭の斎田雄司先生の講話が行われた。料理を学んだ高校時代から現在の三笠高校教諭になるまでの道のりや、料理に限らずどんなことも心を込めることや、思いやりということについてのお話があった。また、三笠高校食物調理科の生徒による野菜の切り方の実演や、本格的なだしを取ったかきたま風スープをみんなで味見するなどのデモンストレーションがあり、参加者にとって、自分の将来のことを考えるきっかけとなるような大変興味深い貴重な時間となった。

参加者からは、「初めて体験することばかりでとてもよい経験になりました。この経験を生かして将来の夢の実現に向けて頑張ります。」「行事に参加して、働くことの大切さなどに気づきました。」などの感想が出され、将来の夢を考える機会を得ることができた2日間となった。

4 事業評価



■ 評価方法・重点

本事業は、企業見学や職業体験、講話を通して働くことや学ぶことの意義を理解し、企画書の作成を通して、課題に対応する能力を育むことをねらいとしたため、「視野・判断」の向上について重点をおいた。

■ 参加者の変容【I K R調査結果】

ほぼ全ての項目において事後が事前以上の数値を得、平均して0.2ポイントの向上がみられた。

重点である「視野・判断」については0.2ポイントの向上が見られた。

■ 結果の分析・考察

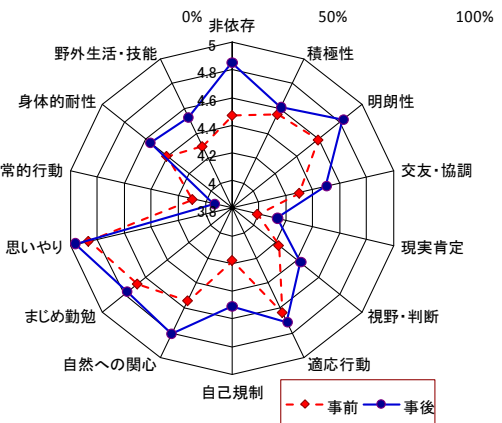
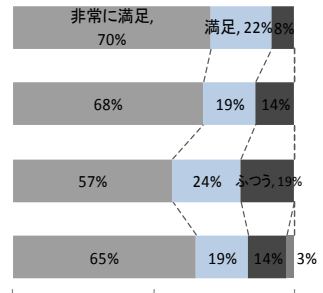
重点である「視野・判断」については、ある程度の向上が見られた。将来に向けて、日々の積み重ねを大切にすることを期待したい。また、「非依存度」について、0.4ポイントの向上が見られた。企業見学や職業体験、講話等を通じて、小さな失敗を恐れずチャレンジすることの大切さを感じた結果であると考えられる。

プログラムの内容に対する満足度

講師・指導者に対する満足度

自分自身の気づきや発見の度合い

周囲へのお勧め度合い



5 まとめ



■ 成果

- ものづくりや職業体験をふまえての企画書づくりであることをしっかり伝えたことや、企画書づくりの時に、インタビュー映像や、発表のデモンストレーションを見せたりしたことで、アイデアあふれるより良い企画書を作ることができた。
- 企業訪問では、企業の受け入れ体制が大変熱心で親切であったため、充実した活動ができ、参加者の満足度も高かった。今後もプログラムを進展させて継続していく必要がある。
- 講話については、話の内容や料理実技などは、身近で興味のある内容であり、将来を考えるきっかけとなるような貴重な話であり、好評であった。

■ 課題・今後の方向性

- 企業との事前打ち合わせの中で、直前まで決まらないものがあったり、前日になって、内容が変更になったりしたものがあった。決定事項の最終確認を行う必要がある。
- 企業訪問については、人数や曜日の関係で、受入企業が限られてくる。今後新たな企業に依頼する場合、早めの事前調査や検討が必要である。